

(3) いかに、気象予測の精度を向上させるか
 甚大な被害をもたらす異常気象が毎年のように発生
 し、国民の生命や財産が脅かされている^⑤。また、気象
 災害による被害は山岳部や臨海部等地形により異な
 り、自治体毎に被害予測を行うことが重要^⑥である。レ
 たが、防災面の観点^⑦からいかに気象予測の精度を
 向上させるかが課題である。

- ⑤ (1)で説明した背景と類似しています。ここは、現状の気象予測の重要性や精度向上が求められる背景を書くべきです。
- ⑥ 被害予測が重要と言いながら、課題は気象予測では整合性がとれていないと思います。
- ⑦ 防災面は、(1)でも触れているので、多様な観点と言えるか疑義があります。

2. 最も重要な課題と解決策
 上記の内「いかに、気候変動への適応策を推進する

か」を最重要課題に選定する。何故なら、解決策の実
 行により、緩和策との相乗効果^⑦が期待できると
 である。以下に解決策を示す。

- ⑦ 緩和策が何か良く分かりません。温暖化ですかね。また、なぜ相乗効果が期待できるのかも良く分かりません(解決策を読めばわかるということですかね?)。

(1) 流域治水まちづくりの推進
 気候変動による水災害リスク増大に対応するため、ハ
 ード・ソフトの両面から流域全体で治水対策に取り組
 む。具体的に以下の対策を講じる。
 ハードの対策：氾濫によるリスク^⑧をできるだけ低減さ
 せるため、堤防整備や護岸整備を行う。また、被害対
 象を減少させるため既存の調整池に加え学校の校庭や
 公園の地下貯留施設整備による流域貯留を行う。これ
 らにより、集中豪雨による水害被害の軽減を図る^⑨。

- ⑧ 「氾濫のリスク」または「氾濫による被害」。ソフトの対策を踏まえると、後者ですかね。
- ⑨ 最初に「氾濫によるリスクをできるだけ低減させるため」と述べているので、重複して

います。また、被害対象を「集中豪雨」に限定する必要はないと思います。

ソフトの対策：河川の水位変異^⑩を観測する。水位計や監視カメラを設置を行う。また、住民への河川水位の上昇時に自分自身がとる防災行動を時系列に整理して、マイタイムラインを作成する^⑪。このように避難するのを考える機会を創出し、水防災に関する知識を習得することで、迅速な避難を実行させるよう喚起する。

⑩ 「変異」→「変位」

⑪ 水位計や監視カメラ設置とマイタイムラインに関係がないのであれば、前述部は、ハードの対策ですね。水位計等から得られる情報を住民にリアルタイムに提供するなどの関係を説明すれば良いと思います。

(2) 都市インフラの強靱化
迅速な交通情報の提供：気象災害時には、道路の冠水や倒木等により交通渋滞が発生し、緊急車両の通行に支障をきたす。そのため、迅速な交通情報も提供できる環境を整備する^⑫。具体的には、ETC2.0ポータルゲートウェイを活用し、車両の走行実績から通行状況の分析^⑬を行う。例えば、集積された情報を

WEB上で閲覧可能にし、リアルタイムな道路の異常情報を提供^⑭する。また、収集した通行実績をマップで示し継続的に更新を行うことで災害時における道路の異常予測を用い^⑮、安全な通行ルートを提供を行う^⑯。

⑫ 削除。解決策なのでやることを書きましょう。

⑬ 平時なのか災害時なのか（予測かリアルタイムで分析するのか）どちらでしょうか。

⑭ 集積された情報なのかリアルタイム情報なのかどちらか分かりません。

⑮ 分析とは異なるものなのでしょうか。また、予測は図るものではないので、「異常を予測し」ですかね。

⑯ 全体的に平時の対策と災害時の対策が混在していませんか。シーン別に再整理が必要に感じます。

安定的な電力の提供：従来の電力インフラは大規模・
 集中型であるため、配電線の破損による影響は広範囲
 にわたる停電を発生させる。そのため、地域マイクログ
 リッドの整備により電力供給の安定化を図る^⑰。例え
 ば、地域マイクログリッドエリア内に風力発電施設や
 太陽光発電設備と蓄電池を設置し、電力の地産地消を
 推進する。また、地域毎に整備されたマイクログリッ
 ド同士をCEMにより管理する^⑱。これにより、災害
 時に系統電力が遮断された際にも、系統内の電源から最
 低限の電力共有を図る^⑲。

⑰ マイクログリッドは電力の安定化を目的としていないと思います。むしろ、分散型電源になるのできちんとマネジメントしないと不安定になるのではありませんか。

⑱ 「マイクログリッド同士を管理する」との表現が分かりづらいです。一括管理ですかね。

⑲ 系統電力が遮断しているのに系統内の電源から電力共有できるのですか。系統電力と系統内の電源が別物であることがこの文から読み取れません。

※ ①のとおり適応策（緩和策+災害対策=適応策）との考える場合、例えば（１）は水循環と治水、（２）は防災と交通最適化、（３）再エネとレジリエンス強化といった具合に、脱炭素と防災・減災の両側面で述べると良いと考えます（国土交通白書の記載にも気候変動に対応するまちづくりは脱炭素と防災の視点が記載されています）。

3. 新たに生じうるリスクと対応策
 新たに生じうるリスク：気候変動の対策を優先した都
 市基盤整備が推進されることで想定される。その結果
 既存の建設産業等において、新たな開発や投資が白
 紙で行うことができず、技術の発展を阻害する恐れ^⑳
 考えられる。
 対応策：立地適正化計画の策定により、都市機能と居
 住機能の誘導・再配置を図り、集約型の都市構造を構
 築^㉑する。市街地の拡散を防止し、都市基盤施設や公
 施設も集積することで、投資効率の高いまちづくりを
 推進する。以上

⑳ 民間資本もあるのではありませんか。また、都市基盤整備の推進による技術発展もある

のではないのでしょうか。主張に信憑性がないように感じます。

② 「構築」 → 「構築」